

# 第14回空間デザイン・コンペティション審査講評

## 香山壽夫

**提案部門** 私の年代の者にとっては、駅はいつものか哀愁を伴う生活の区切りの場所だった。地域のコンパクトなまとまりを復活させようとする新しい都市デザインの流れにとっては、駅は地域の街と街の角として重視されているのだが、そうした提案は私が期待していたほど多くはなく、都市生活者の一瞬の感覚に働きかけるといったイメージが大勢を占めていた。この辺が今日の都会人の生活のリアリティなのかかもしれない。

そうした状況の中で金賞の**尾野案**が提案した、儂くも純粋なイメージには魅了された。近頃、いろ

いろな建築家のデザインした駅があちこちに見られるが、これに勝るものはないだろう。実現してみたいものだ。銀賞の**石沢案**も、大都市郊外の駅に実際に建てられると素晴らしいだろう。郊外住宅地のひとつのまとまりに核を与えてくれるに違いない。水辺の駅としては、銅賞の**稲葉案**の詩情、佳作の**中村+榎本+神内案**の新鮮な着想に確かな手応えを感じた。

**作品例部門** 設計にたずさわる者として素材はつねに発想の最も大切な手がかりのひとつであるので、さまざまな建築家がさまざまな状況、要求に

応じて、素材と空間へと展開していく例を見せていただけることはまことに嬉しく、また刺激となる。金賞の「**鈴鹿市立旭が丘小学校**」は、通常あまり楽しい場所とは言えない学校のトイレを光と色彩あふれる場所に高揚させた。建築全体も見事だ。銅賞の、石とグラソアの組み合わせ「**日本大学生物資源科学部富士自然教育センター新宿泊棟**」は、誠に新鮮な用い方で、感心させられた。他にも多々興味深いものがあつたが、すべてに論評できないのは残念である。

## 可児才介

建材を限定して作品を募るというコンペは、応募者にとって大変難しそうだ、当初感じていた。しかし両部門併せて、543件という多数の応募者の数を聞いて改めて応募者の意欲を実感した。

**提案部門** 金賞の**尾野案**はガラスブロックのヴォールトで包まれた駅空間を幻想的に表現した優れた作品である。地上面のトップライトからの自然光が地上の時間を知らせてくれるだろう。銀賞の**石沢案**もヴォールト空間である。この案では外を覆うツタのベールが駅の中を緑の光で包む。自然の趣があふれる駅である。銅賞の**稲葉案**はガラスブ

ロックでつくられた棧橋である。発光体が仕込まれていて、夜の闇の中の海で港の位置を暖かく知らせる新たな灯台である。棧橋の背景にあるはずの明かりとの関係が課題である。佳作の**久保+都島案**では、床全面に広がるガラスブロックの平面が、歩く人に対して行く先までナビゲートしてくれる情報スクリーンになる。乗客は電子チケットを持っているだけでゲートまで難なくたどりつけるという新しいシステムである。プレゼンテーションが詩的でつい目に留まる案である。駅のホームに近づく電車の動きを光で知らせる壁の案なども目を引いた。

**作品例部門** いろいろな材料を使う中で、最初に目に留まるのはやはりガラスブロックを使った作品である。特に金賞の「**鈴鹿市立旭が丘小学校**」ではこの材料が建築の美しさを引き出す大きな要素になった。使われた部分の内部はトイレだが、この材料が快適で清潔な機能を補完している。グラソアを光る材料として壁面に使ったものが2点（銀賞、銅賞）あつた。その意外性と新鮮さは新しい材料の可能性を示して興味をそそった。特定の材料を使う条件の中でこれだけの想像力にあふれた多くの作品が登場し、審査は充実したものになった。

## 安田幸一

このコンペは主催社の製品を使用するという制約がある。つまり、抽象的な製品ではなく独特の表情を持つ素材を扱うことが条件になる。そのような中で、自己の空間が主役にならなければならない。入賞作は、製品と適度な距離感を保ちながら新鮮な空間を提案しているものが選ばれた。

**提案部門** たとえ技術的に実現性に多少難があつても夢がある案が望ましいと考えた。金賞の**尾野案**は、地下鉄駅に自然光を採り入れた、大胆なガラスブロックのダブルスキンのヴォールト空間であ

る。組石するイメージが強く表現されている。ほんのりと色を残した白黒に近いパースのセンスのよさが目を引いた。銀賞の**石沢案**は、同じくガラスブロックのヴォールト屋根の上にツタを配した駅舎である。プラットホームから見上げたツタの陰影が心地よさそうである。銅賞の**稲葉案**は、ガラスブロックの波止場を浮遊させ、夜は海中から照らし上げるというロマンチックなアイデアが高く評価された。

**作品例部門** 金賞の「**鈴鹿市立旭が丘小学校**」は、教室とトイレの空間対比を強調するという直球解が

痛快であった。教室はハイサイドライトを持った明るく抽象的な空間、一方、トイレはカラフルなガラスブロック壁によって、床にさまざまな色を映し出す。銅賞の「**日本大学生物資源科学部富士自然教育センター新宿泊棟**」は、地元の大沢石の大壁面にグラソアを挿入している。その数の少なさが、かえって製品の魅力を引き立たせている。佳作の「**福井駅前交番**」の再生ガラスブロックで街の記憶を保存する手法、「**DUO EAST**」の集合住宅におけるプライバシー保護と光の制御手法は新鮮であった。

## 大工信隆

第14回空間デザイン・コンペティションを無事に終えることができ、主催者の一員として厚く御礼申し上げます。

**提案部門** 「駅の未来をつくるガラスブロック」という、50周年を迎えたガラスブロックの将来性を問うような課題に対し、予想を上回る342件というたくさんのご応募をいただくことができ、驚きと共にガラスブロックがまだまだ伸びていく建材であることを再認識し、勇気づけられた想いであります。ご応募いただいた作品は、機能性とデザイン性を

併せ持つガラスブロックの特長をよく研究された提案が多く、私自身、どの作品を選んだらよいか大変迷いました。金賞を受賞された**尾野案**は、弊社独自の乳白のガラスブロック・オパリーンを積み上げ、地下にヴォールト状の白い大空間をつくってしまおうというダイナミックな発想でした。オパリーンを透過した柔らかな光で、その大空間を満たすという、オパリーンの特長をよく研究し、それをうまく活かした提案だったと思います。いつの日か「THE WHITE METRO」、白いガラスブロックの地下鉄

駅が実現することを待ち望みたい気持ちです。

**作品例部門** 201件というたくさんのご応募をいただきました。審査は例年と同様に、激戦となりましたが、金賞を受賞された「**鈴鹿市立旭が丘小学校**」では、カラーガラスブロックをランダムに積むといった、スタンドグラスのような楽しい使い方が印象的でありました。小学校にふさわしい「遊び心」が感じられたところが、受賞の決め手になったと思います。